

平成27年1月19日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 千葉県教育委員会

所 在 地 千葉県千葉市中央区市場町1-1

代表者職氏名 千葉県教育委員会教育長

瀧本 寛

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ちばけんりつ ながれやまおおたかのもりこうとうがっこう	ふりがな	みながわ しんいちろう
学校名	千葉県立流山おおたかの森高等学校	校長名	皆川 眞一郎
ふりがな	ちばけんながれやましりつ みなみながれやまちゅうがっこう	ふりがな	こばやし のぶや
学校名	千葉県流山市立南流山中学校	校長名	小林 信弥
ふりがな	ちばけんながれやましりつ にしはついでしちゅうがっこう	ふりがな	たかはし とおる
学校名	千葉県流山市立西初石中学校	校長名	高橋 徹
ふりがな	ちばけんながれやましりつ みなみながれやましょうがっこう	ふりがな	はしもと みきお
学校名	千葉県流山市立南流山小学校	校長名	橋本 美喜夫
ふりがな	ちばけんながれやましりつ ひれがさきしょうがっこう	ふりがな	いわい まさき
学校名	千葉県流山市立鱈ヶ崎小学校	校長名	岩井 雅規
ふりがな	ちばけんながれやましりつ にしはついでししょうがっこう	ふりがな	のざき としこ
学校名	千葉県流山市立西初石小学校	校長名	野崎 肇子

### 3. 研究内容

#### (1) 研究開発課題

自らの意見を述べ、自国の文化や特徴を語ることのできる能力の育成を目指して、英語教育の実施学年の早期化及び教科化に基づいた小中高等学校の系統性のある教育課程及び評価方法の研究開発

#### (2) 研究の概要

小学校第3学年、第4学年では、外国語活動の在り方について“Hi, friends!”等を活用し研究を行う。小学校第5学年、第6学年では、平成26年度については流山市教育委員会が作成した英語カリキュラムを使用し、英語科としての教材の有用性、指導方法と評価方法を研究する。カリキュラムに関する研修会等には中学校・高等学校教員も参加して理解を深めるとともに、児童生徒、教員間の交流や小中高のカリキュラムの接続を図り、小学校での学習を生かした教育内容の見直しを行う。

また、中学校、高等学校の接続に関しては、千葉県立流山おおたかの森高等学校と連携し、中学校における英語で行う授業の在り方、CAN-DO リストの作成と活用等について学校段階を踏まえた研究を行うとともに、高校生と小中学生の児童生徒及び教員の交流も継続して行い、英語を用いてコミュニケーションを図る多様な機会を設定する。具体的には、平成25年度に引き続き、流山おおたかの森高等学校コミュニケーション科の生徒が市内小学校へ出向き、授業を行う等を予定している。

#### (3) 現状の分析と仮説等

##### ①現状の分析と研究の目的

流山市は、つくばエクスプレス線の開業に伴い、都内近郊からの人口流入が進み、児童生徒数外国人数も増加しており、市民の英語教育への関心も高い。市教育委員会の主導で、全市的に小中連携に力を入れており、教員の交流や合同の研究会、一部兼務発令による授業等にも取り組んでいる。

現在、各小学校では第1学年～第4学年まで1時間～3時間程度（一部10時間程度）の第5、第6学年の外国語活動につなげる英語活動を実施している。市内全15校に英語に堪能な地域人材1名を配置し、3名のネイティブスピーカーとともに指導にあたっている。小中学校の教員対象の研修会等を実施し、第5学年、第6学年については、“Hi, friends!”等を活用し、担任による外国語活動が実施されているが、1～4学年に関しては、担任の意向により、ネイティブスピーカーを活用しながら、様々な内容を行っている。系統的な指導が現在の課題である。ともすると、同じ内容や活動が各学年で繰り返され、児童の興味関心が十分高まらない状況が見られる。また、担任が指導内容の選択に苦慮するケースも見られた。

中学校では、各学校にネイティブスピーカーを配置し、生徒、教師が、日常的に英語に触れる環境にあり、学習への取組、英検の取得率の増加、スピーチコンテストの参加生徒数の増加など、生徒の英語学習への意欲は高い。しかし、文字の導入時の指導や小学校の学習とのつながり、体験してきたことをどう生かし、学習内容を高度化していくか、「理解の能力」、「表現の能力」をどのように高めていくかに課題がある。

以上のことから、研究校において、以下5点について研究開発を行う。

##### 1) 小学校第3学年、第4学年で週1時間行う外国語活動の指導と評価

- 2) 小学校第3学年, 第4学年の外国語活動から5, 6学年の英語科への円滑な接続の在り方
- 3) 小学校第5学年, 第6学年の英語科の指導内容と評価方法
- 4) 小学校第3学年から中学校第3学年までの学習到達目標の設定及びそれに基づく指導法と評価方法の検証
- 5) 中高連携による英語で行う授業の在り方, 学習内容の高度化

#### ②研究仮説

- 1) 小学校第3学年, 第4学年の外国語活動を週1時間確保し, 児童の発達の段階及び他教科の学習内容を考慮しながら, 共通教材“Hi, friends!”を活用することで, 指導法や学習方法, 評価の一貫性が保たれ, コミュニケーション能力の素地が育成されるであろう。
- 2) 小学校3, 4学年での外国語活動をもとに, 第5学年, 第6学年において, 中学校との円滑な接続を視野に入れた適切な教材やカリキュラムを開発することにより, 小・中学校を通じて, 「表現の能力」, 「理解の能力」が高まり, コミュニケーション能力の基礎が養われるであろう。
- 3) 小学校での英語の教科化を受けて, 小中高を通じた学習到達目標を適切に設定し, 能力の育成を重視した指導を行うことで, 自らの意見を述べ, 自国の文化や特徴を語ることのできる能力が育成されるであろう。

#### ③研究成果の評価方法

- 1) 課題認識の的確性 (英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り)
  - ・各学校の課題意識や解決手段等の共通認識がなされた上で, 各学校での研究が行なわれているか。
- 2) 計画や手順の妥当性 (教員, 保護者へのアンケートの実施)
  - ・研究課題にあった計画が全職員の共通理解のもとに作成されているか。
  - ・児童生徒の実態や学校, 地域社会の現状を踏まえ, 無理のない計画となっているか。
  - ・当初のねらいどおりに研究が進行しているか。
  - ・全教職員の士気が高まっているか。
  - ・児童生徒の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。
- 3) 研究のねらいの達成度
  - ・小学校第3, 4学年において, コミュニケーション能力の素地が養われているか。  
(授業中の見とりや成果物による児童の評価の蓄積, 児童アンケートの実施)
  - ・小学校第5, 6学年において, 英語を聞いたり, 話したり, 読んだり, 書いたりすることに慣れ, 積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が育成されているか。  
(授業中の見とりや成果物, パフォーマンステスト, 児童アンケートの実施)
  - ・中学校において, 小学校との継続性のある指導方法, 指導内容, カリキュラムとなっているか。(カリキュラムの妥当性の検証, 中学1年生へアンケートの実施)
  - ・中学校において「表現の能力」, 「理解の能力」が向上しているか。  
(パフォーマンステスト, 定期テスト, 外部検定試験の結果分析)
  - ・教師の課題に対する認識や態度の変化が現れているか。  
(意識調査, 聞き取り, 児童生徒への理解, 教科への理解)
- 4) 研究の結果得られた結論の実証度  
(児童生徒の実態把握→到達目標→手立て(実践)→評価のサイクルの確認)

## 5) 研究成果の一般性

- ・ 研究内容は、市内全中学校区で実施可能か。（市主催の研修会での報告）

## (4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第3, 4, 5学年 1コマ	第3, 4学年 1コマ	第3, 4学年 1コマ	第3, 4学年 1コマ
②小学校 教科型	第6学年 1コマ	第5, 6学年 1コマ	第5, 6学年 2コマ	第5, 6学年 3コマ (内1コマ分は モジュール)

## (5) 研究計画（平成26年度の進捗状況・課題）

第一年次～第四年次，校種別

### 小学校

#### 1年目（平成26年度）

1 研究対象児童 第3学年，第4学年，第5学年，第6学年

#### 2 (1) 外国語活動の研究

○年次目標 外国語に親しみ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- ① 身近な英語に興味を持つことができる
- ② 英語を使って人と関わろうとすることができる

#### (2) 英語科の研究

○年次目標 英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりして，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- ① 文字に興味を持ち，親しむことができる

#### 3 目標を達成するための指導法の研究

#### (1) 第3学年，第4学年の外国語活動の効果的な指導の在り方の研究

- ① “Hi, friends! 1”の活用
- ② 発達の段階や他教科の学習内容等を踏まえ，各学年にあった学習内容，指導法，評価方法

#### (2) 第5学年 第6学年の英語科との接続に配慮した外国語活動の研究

- ① “Hi, friends! 2”と流山市英語プログラムの活用
- ② 第6学年の英語科につながる指導の在り方

#### (3) 第6学年 英語科としての外国語指導の在り方の研究

- ① 外国語活動と教科としての英語科の趣旨
- ② 流山市英語プログラムを活用した第6学年の学習到達目標の在り方，指導法

#### 2年目（平成27年度）

- 1 研究対象児童 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年
- 2 (1) 外国語活動の研究
  - 年次目標 外国語に慣れ親しみ, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
    - ① 身近な英語に興味を持つことができる
    - ② 英語を使って人と関わろうとすることができる
- (2) 英語科の研究
  - 年次目標 英語を聞いたり, 話したり, 読んだり, 書いたりして, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
    - ① 文字を使って行う活動に興味を持ち, 取り組むことができる
    - ② 英語を使って, 考えや気持ちを伝える楽しさや大切さがわかる
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) 第3学年, 第4学年の外国語活動の効果的な指導の在り方の研究
    - ① “Hi, friends! 1” (第3学年) “Hi, friends! 2” (第4学年) の活用
    - ② 発達の段階や他教科の学習内容等を踏まえ, 各学年にあった学習内容, 指導法, 評価方法
  - (2) 第5学年 第6学年の英語科との接続に配慮した外国語活動の研究
    - ① “Hi, friends! 2”と流山市英語プログラムの活用
    - ② 第6学年の英語科につながる指導の在り方
  - (3) 第6学年 英語科としての外国語指導の在り方の研究
    - ① 外国語活動と教科としての英語科の趣旨
    - ② 流山市英語プログラムを活用した第6学年の学習到達目標の設定, 指導内容, 指導法, 評価方法の検討
    - ③ 平成28年度の時間数増に向けたカリキュラムの作成
    - ④ 文部科学省作成の補助教材の研究

### 3年目(平成28年度)

- 1 研究対象児童 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年
- 2 (1) 外国語活動の研究
  - 年次目標 外国語に慣れ親しみ, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
    - ① 身近な英語に興味を持つことができる
    - ② 英語を使って人と関わろうとすることができる
- (2) 英語科の研究
  - 年次目標 英語を聞いたり, 話したり, 読んだり, 書いたりして, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
    - ① 文字を使って行う活動に興味を持ち, 取り組むことができる
    - ② 英語を使って, 考えや気持ちを伝える楽しさや大切さがわかる
    - ③ 学習した表現や単語を使って, 積極的にコミュニケーションを図ろうとする
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) 第3学年, 第4学年の外国語活動の効果的な指導の在り方の研究
    - ① “Hi, friends! 1” (第3学年) “Hi, friends! 2” (第4学年) の活用

- ② 各学年にあった学習内容，指導法，評価方法のまとめと学習到達目標の設定
- (2) 第5学年，第6学年 英語科としての外国語指導の在り方と評価
  - ① 流山市英語プログラムと文部科学省作成補助教材の活用
  - ② 学習到達目標の設定と流山市英語プログラムと文部科学省作成補助教材を併用した指導内容，指導法，評価方法のまとめ
  - ③ 平成29年度モジュールでの指導内容の検討及び教材作成

#### 4年目（平成29年度）

- 1 研究対象児童 第3学年，第4学年，第5学年，第6学年
- 2 (1) 外国語活動の研究
  - 年次目標 外国語に慣れ親しみ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
    - ① 身近な英語に興味を持つことができる
    - ② 英語を使って人と関わろうとすることができる
  - (2) 英語科の研究
    - 年次目標 英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりして，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
      - ① 文字を使って行う活動に興味を持ち，取り組むことができる
      - ② 英語を使って，考えや気持ちを伝える楽しさや大切さがわかる
      - ③ 学習した表現や単語を使って，積極的にコミュニケーションを図ろうとする
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) 第3学年，第4学年の外国語活動の効果的な指導の在り方の研究
    - ① “Hi, friends! 1”（第3学年）“Hi, friends! 2”（第4学年）の活用
    - ② 各学年にあった学習内容，指導法，評価方法のまとめと学習到達目標の検証
  - (2) 第5学年，第6学年 英語科としての外国語指導の在り方と評価
    - ① 流山市英語プログラムと文部科学省作成補助教材の活用
    - ② 学習到達目標の設定と流山市英語プログラムと文部科学省作成補助教材を併用した指導内容，指導法，評価方法のまとめ
    - ③ 平成29年度モジュールでの指導内容の検討及び教材作成

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

第3学年，第4学年においては，主に“Hi, friends!”を使用し，発達段階，児童の興味関心，他教科の学習内容との連動を考慮し，学習内容を工夫している。音声による指導を中心とし，英語の歌やチャンツによるウォーミングアップ，電子黒板を使用した音声教材による導入等で良質なインプットを心がけた。また，指導者は，クラスルームイングリッシュをはじめ，可能な限り英語での指示や説明を行っている。

第5学年，第6学年においては，主に流山市の独自教材である『流山市英語プログラム』を使

用し、必要に応じて“Hi, friends!”や電子黒板による映像・音声教材を併用している。学校行事や他教科で学習した内容と『流山市英語プログラム』を関連づけた指導も行った。今年度の研究内容の一つに、「英語科としての外国語指導の在り方」があるが、CAN-DO リストを作成するにあたり、各学年の学習到達目標を設定することで、活動型と教科型の違いを踏まえた指導の在り方について理解が深まった。

今後の課題は、小学校から中学校への円滑な移行のために、系統性のあるカリキュラムの接続を考えていくことである。より一層、小学校・中学校間の連携を密にし、小学校で学習した内容や到達度を確実に中学校へ引き継ぐとともに、高学年教科型における「読むこと」「書くこと」の指導については、小学校と中学校が連携してどのように系統立てて指導するかを検討していく必要がある。また、CAN-DO リストと年間計画がリンクするように整備していく。

## 中学校

### 1 年目（平成 2 6 年度）

- 1 研究対象生徒 第 1 学年
- 2 小学校との円滑な接続と外国語活動の成果を活かす指導の在り方  
○年次目標 学習したことを活用して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) 小学校の指導内容、指導方法と外国語活動を経験した生徒と英語科として学習してきた生徒それぞれへの配慮事項
  - (2) 言語材料についての知識や理解を深める言語活動の在り方
  - (3) 考えや気持ちを伝え合う言語活動の在り方
  - (4) 3年間を見通した学習到達目標の設定
  - (5) 英語で行う英語の授業（主に第 1 学年）の実施・検証

### 2 年目（平成 2 7 年度）

- 1 研究対象生徒 第 1 学年，第 2 学年
- 2 小学校英語科の成果を活かす指導の在り方と言語活動の充実  
○年次目標 相手の意向や考えを理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力の育成
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) 小学校英語科の指導内容、指導方法を活かす指導の在り方
  - (2) 言語活動を中心とした授業の在り方
  - (3) 「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の育成
  - (4) 3年間を見通した学習到達目標の設定
  - (5) 英語で行う英語の授業の実施・検証（主に第 1～2 学年）

### 3 年目（平成 2 8 年度）

- 1 研究対象生徒 第 1 学年，第 2 学年，第 3 学年

## 2 「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の深長を図る指導の在り方

○年次目標 相手の意向や考えを理解し、自らの考えを述べることができる力の育成

## 3 目標を達成するための指導法の研究

- (1) 「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の伸長を図るための年間指導計画の見直し
- (2) 「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の伸長を図る指導法と適切な評価方法
- (3) 英語を実際に使用する機会の設定
- (4) 小学校3年生から中学校3年生までを見通した学習到達目標の検討
- (5) 英語で行う英語の授業の実証・検証（全学年）

## 4 年目（平成29年度）

## 1 研究対象生徒 第1学年，第2学年，第3学年

## 2 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成

○年次目標 相手の意向や考えを理解し、自らの考えや自国の文化や特徴を述べるができる力の育成

## 3 目標を達成するための指導法の研究

- (1) 4技能を統合的に活用できる言語活動の在り方と適切な評価方法
- (2) 「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の伸長を図る指導法と適切な評価方法
- (3) 英語を実際に使用する機会の設定
- (4) 小学校3年生から中学校3年生までを見通した学習到達目標の設定
- (5) 英語で行う英語の授業の実施・検証（全学年）

## ○平成26年度の進捗状況・課題

主な取組としては、「授業は英語で行うことを基本とする」こととし、学習した英語を実際に使用する必然性が感じられる言語使用場面の工夫を行った。また、CAN-DO リストの作成，年間計画の見直し，評価方法についての検討を重ねるとともに，パフォーマンステストを実施し，評価へとつなげた。

来年度からは新しい英語教育の取組を経験した生徒が入学してくるので，学習内容や目標の高度化を目指した学習到達目標を設定し，CAN-DO リストが反映された年間計画に基づいて授業を実施していく。

平成27年2月には英検協会による「英語能力判定テスト」を実施する予定である。

## 高等学校

## 1 年目（平成26年度）

## 1 研究対象生徒 普通科・国際コミュニケーション科 第1学年

## 2 学校設定科目「コミュニケーション基礎」のシラバスの研究

○（年次目標）『伝える力』の育成

- (1) 日常生活における身近な話題に関する情報や考えなどを，  
ア 聞いたり，読んだりして，概要を理解することができる。



イ 話したり，書いたりして伝えることができる。

(2) 英検 3 級レベルの語を **active vocabulary** として運用することができる。

(3) 積極的に自己表現することができる。

### 3 目標を達成するための指導法の研究

(1) 英語による英語の授業の指導法

(2) 積極的に話す能力を身につける指導法

(3) 情報や考えを伝える技能をつける指導法

(4) 運用語彙サイズの拡充のための指導法

(5) 英文の語順や構文に慣れる指導法

### 4 小中学校との連携

(1) 域内小学校英語担当教員，中学校英語科教員対象研修会の実施

(2) 域内小学校へ本校英語教員及び本校国際コミュニケーション科生徒を派遣し，英語活動を行う出前授業「高校生が先生」の実施（生徒の移動のためにバスが必要）

## 2 年目（平成 27 年度）

1 研究対象生徒 普通科・国際コミュニケーション科 第 1 学年及び第 2 学年

2 学校設定科目「コミュニケーション活動 I」のシラバスの研究

○（年次目標）『伝え合う力』の育成

(1) 社会的な話題に関する情報や考えなどを伝え合うことができる。

(2) 自分の立場を明確にして意見を述べることができる。

(3) 英検準 2 級レベルの語を理解することができる。

(4) 話されたり書かれたりした内容について，質問したり感想を述べたりすることができる。

### 3 目標を達成するための指導法の研究

(1) ディベートの前段階としてのコミュニケーション活動を段階的に指導する効果的な方法の研究

(2) (1) を踏まえて，「おおたか簡易ディベート・フォーマット」によるコミュニケーション活動を通して，ディベートに関する基本的な知識と技能に関する気づきを促す指導法の研究

(3) インプットした語彙及び語順・語法の知識を活用できるコミュニケーション活動を，以下の段階を踏みながら行い，情報や考えを『伝え合う』ための方策を身につけていくための段階的な指導法の研究

ア 教師主導による教師・生徒間のインタラクションを行う段階

イ 生徒が主導し，教師の補助によってインタラクションを行う段階

ウ 生徒同士のインタラクションを事前準備をしてから行う段階

エ 生徒同士で，事前準備をせずにインタラクションを行う段階

### 4 小中学校との連携

(1) 域内小学校英語担当教員，中学校英語科教員対象研修会の実施

(2) 域内小学校へ本校英語教員及び本校国際コミュニケーション科生徒を派遣し，英語活動を行う出前授業「高校生が先生」の実施（生徒の移動のためにバスが必要）

## 3 年目（平成 28 年度）

- 1 研究対象生徒 普通科・国際コミュニケーション科 第1学年, 第2学年及び第3学年
- 2 学校設定科目「コミュニケーション活動Ⅱ」のシラバスの研究
  - (年次目標) 『論じ合う力』の育成
    - (1) 日常生活における身近な話題に関する情報や考えを即興的に伝えることができる。
    - (2) 聞いたり, 読んだりして理解したことを応用し, 自分の考えや意見を話したり, 書いたりして伝えることができる。
    - (3) 自分の考えを論理的にまとめたり, 相手の意見を批判的に分析することができる。
    - (4) 社会的な話題について論じ合うことができる。
    - (5) 英検準2級レベルの語を **active vocabulary** として運用することができる。
- 3 目標を達成するための指導法の研究
  - (1) ディスカッションによるコミュニケーション活動の指導法
  - (2) 論理的思考力や批判的思考力を身につける
  - (3) 語彙サイズの拡充 (**Input Activity, Output Activity** の開発)
  - (4) 英文の語順や構文になれる指導法 (“**Easy Reading**” (多読指導) と教材開発)
- 4 小中学校との連携
  - (1) 域内小学校英語担当教員, 中学校英語科教員対象研修会の実施
  - (2) 域内小学校へ本校英語教員及び本校国際コミュニケーション科生徒を派遣し, 英語活動を行う出前授業「高校生が先生」の実施 (生徒の移動のためにバスが必要)

#### 4年目 (平成29年度)

- 1 研究対象生徒 普通科・国際コミュニケーション科 第1学年
- 2 「総合英語」「コミュニケーション英語Ⅰ」の指導法の研究
  - (年次目標) 四技能のバランスのとれた指導法と評価の一体化
    - (1) 四技能をバランスよく配置した授業展開の研究
    - (2) 二技能以上を統合した活動の研究
    - (3) インタビューテスト等を利用したパフォーマンス評価の研究
    - (4) 興味・関心・意欲の評価法の研究
- 3 小中学校との連携
  - (1) 域内小学校英語担当教員, 中学校英語科教員対象研修会の実施
  - (2) 域内小学校へ本校英語教員及び本校国際コミュニケーション科生徒を派遣し, 英語活動を行う出前授業「高校生が先生」の実施 (生徒の移動のためにバスが必要)

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

- 1 学校設定科目「コミュニケーション基礎」のシラバスの研究について
 

年次目標である「伝える力」の育成を達成するために、コミュニケーション活動を主体とした授業展開を研究している。日常生活の身近な話題をテーマとし、それに関する情報や考えを伝えるために、ペアワークやグループワークを利用した授業展開を行っている。また、間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために、文法的なアキュラシーを問わないこととしている。授業と評価の一体化を目指し、ペーパーテストを行わず、100%パフォーマンス評価としている。

授業においては、即興的な会話と一定の準備を基にした発話のバランスを考え、指導を行っている。また、インフォメーションギャップを利用したコミュニケーション活動を通して、運用語彙及び運用表現が増加するように指導している。即興的な発話については、テーマを非常に身近な話題とし、自分の語彙や表現で情報や考えを伝えるトレーニングを中心としている。また、社会的なテーマや論理的な思考を伴うテーマについては、マインドマッピングを利用し、自分の考えをまとめた後、コミュニケーション活動を行っている。マインドマッピングを利用することにより、自分が使用したい語彙や表現を和英辞書で調べる生徒が増加したため、2学期よりマイ・ボキャブラリー・バンク・シートを作成し、それぞれの生徒が使用したい語彙を自分でまとめている。

どちらの場合においても、発話の前にはスクリプトを書かせないこととしている。スクリプトを書かせてしまうと、すべてを暗記しようとし、暗記力を問うスピーチになってしまうためである。また、スクリプトを書かせると、どうしても正しい英文を書こうという意識が強くなりすぎてしまい、ミスをすることを恐れてしまうため、発話には適さないと考える。

また、それぞれのテーマでのコミュニケーション活動の最後には、発表活動としてスピーチを行っている。

#### \*スピーチのテーマ

1学期「自分のこと」「自分の好きなこと」

2学期「学校は漫画や雑誌を持ち込むことを許可すべきか」「学校は携帯電話の持ち込みを許可すべきか」

一方、それぞれの活動に非常に時間がかかり、多くのテーマを扱うことができないことが課題となっている。語彙や表現に広がりが生まれることを考えると、ウォームアップ、スモールトーク、宿題等を利用し、多くのテーマに触れさせることを検討している。

## 2 目標を達成するための指導法の研究

科目ミーティングを週に1回50分行い、「単元ごとの目標」「授業で使用するコミュニケーション活動」「共有するワークシート作り」「パフォーマンステスト」「評価基準の設定」等について、すべての担当で話し合い、決定している。ベテラン教員はこれまでの経験から、若手教員は新しい発想から、それぞれの意見を出し合い授業改善に取り組んでいる。また、悩みを共有することができ、授業を見せ合う習慣がついてきた。特に若手教員にとっては、ワークシートの作成が授業力の向上に非常に効果的である。

一方、教員の外部の研修への参加が少ないことが課題である。長期休業等においても、課外授業や部活動指導等によって、公務優先となっている現状がある。今後は、他県の優れた事例、データに基づいた学術的な指導法、教員自身の英語のスキルアップ等を図る必要がある。

## 3 小中学校との連携

### (1) 学校開放講座「Hello, English!」

小学1・2年生及びその保護者を対象とした学校開放講座を7月22日(火)～25日(金)の4日間(1日2.5時間、計10時間)実施した。内容は、英語を使いながら、ペーパーマルシェ(風船・小麦粉・新聞紙で張り子を作り、画用紙を貼ることで自分の好きなキャラクターにする)を作成し、最終日にそれぞれのキャラクターの「名前」「色」「体の部位」「どこに住んでいるか」「何が好きか」「何を食べているか」等を英語で発表する活動に合わせた。体験学習と英語学習を組み合わせた内容となり、参加者は非常に積極的に活動した。

## (2) 本校生徒による小学校への出前授業「高校生が先生」

本校英語教員、ALT 及び本校国際コミュニケーション科の生徒が、流山市内の小学校を訪れ、小学生と一緒に英語活動を行う「高校生が先生」を実施した。本校の授業と同じようにコミュニケーションを主体とした授業を展開している。今年度は、高校生がスーパーの店員に扮し、小学生が自分の好きなカレーの材料を買いに行くロールプレイ形式の授業を実施した。本校生徒にとっては、自分の存在意義を実感することができ、キャリア教育としての効果も期待できる。

第1回 7月11日（金）南流山小学校6年生3クラス

第2回 11月13日（木）小山小学校6年生3クラス

第3回 12月12日（金）東深井小学校5年生5クラス

第4回 12月17日（水）長崎小学校5年生2クラス

第5回 1月15日（木）西初石小学校4年生3クラス

## (3) 中学生対象英語授業

7月10日（木）西初石中学校3年生3クラス、12月10日（水）七次台中学校3年生4クラスの生徒を対象に、コミュニケーションに特化した英語による英語の授業の特別授業を行った。マインドマッピングを利用し、「自分の好きな場所」をテーマとして、インタビュー形式で2分程度の会話を目標に実施した。中学生にとっては、高校の授業を体験するだけでなく、中学校で学んでいることが実際に使用できることを感じる事ができたようだ。

## (4) 本校主催中学生対象英語スピーチコンテスト

11月8日（土）に中学生対象英語スピーチコンテストを実施した。流山市教育委員会の後援をいただき、教育長賞を目標として近隣の51名の生徒が参加した。また、流山市内の8つの中学校のすべてから参加があったことは、拠点地域としての積極的な姿勢の表れと考えられる。「1・2年対象レシテーション」「3年対象レシテーション」「全学年対象スピーチ」の3部門からなり、スピーチ部門では自分の考えを他者に伝えようという強い意志を感じた。本校生徒は司会を担当し、結果発表の前には、参加者の前で本校教員と即興で英語での会話を行った。まだまだ不十分ではあるが、中学生にとってロールモデルとなるように今後も実施していきたい。

## (6) 評価計画（平成26年度の進捗状況・課題）

第一年次

小学校

1年目（平成26年度）

1 課題認識の的確性（英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り）

- 2 計画や手順の妥当性（教員，保護者へのアンケートの実施 6月，11月）
  - ・児童の実態や学校，地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
  - ・児童の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。
- 3 研究のねらいの達成度
  - ・小学校第3，4，5学年において，コミュニケーション能力の素地が養われているか。  
（授業中の見とりや成果物による児童の評価の蓄積，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・小学校第6学年において，英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりすることに慣れ，積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が育成されているか。  
（授業中の見とりや成果物，パフォーマンステスト，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・教師の課題に対する認識や態度の変化（意識調査，聞き取り 11月）

## 2年目（平成27年度）

- 1 課題認識の的確性（英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り）
- 2 計画や手順の妥当性（教員，保護者へのアンケートの実施 6月，11月）
  - ・児童の実態や学校，地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
  - ・児童の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。
- 3 研究のねらいの達成度
  - ・小学校第3，4学年において，コミュニケーション能力の素地が養われているか。  
（授業中の見とりや成果物による児童の評価の蓄積，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・小学校第5，6学年において，英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりすることに慣れ，積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が育成されているか。  
（授業中の見とりや成果物，パフォーマンステスト，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・教師の課題に対する認識や態度の変化（意識調査，聞き取り 11月）

## 3年目（平成28年度）

- 1 課題認識の的確性（英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り）
- 2 計画や手順の妥当性（教員，保護者へのアンケートの実施 6月，11月）
  - ・児童の実態や学校，地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
  - ・当初のねらいどおりに研究が進行しているかどうか。
  - ・教職員の士気が高まっているか。
- 3 研究のねらいの達成度
  - ・小学校第3，4学年において，コミュニケーション能力の素地が養われているか。  
（授業中の見とりや成果物による児童の評価の蓄積，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・小学校第5，6学年の授業時数増加にともない，英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりすることに慣れ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されているか。  
（授業中の見とりや成果物，パフォーマンステスト，児童アンケートの実施 7月，12月）
  - ・教師の課題に対する認識や態度の変化（意識調査，聞き取り 11月）

## 4年目（平成29年度）

## 1 研究のねらいの達成度

- ・小学校第3, 4学年において, コミュニケーション能力の素地が養われているか。  
(授業中の見とりや成果物による児童の評価の蓄積, 児童アンケートの実施 7月, 12月)
- ・小学校第5, 6学年において, モジュールの時間を効果的に活用英語を聞いたり, 話したり, 読んだり, 書いたりすることに慣れ, 積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度が育成されているか。  
(授業中の見とりや成果物, パフォーマンステスト, 児童アンケートの実施 7月, 12月)
- ・教師の課題に対する認識や態度の変化 (意識調査, 聞き取り) 11月

## 2 研究の結果得られた結論の実証度

(「児童生徒の実態把握→到達目標→手立て(実践)→評価」のサイクルに従い検証)

## 3 研究成果の一般性

- ・研究内容は, 市内全中学校区で実施可能か。  
(市主催の研修会での報告)

## ○平成26年度の進捗状況・課題

児童への意識調査を11月に実施した。傾向としては, 学年が上がるごとに「英語が好き」と回答する児童が減っており, 改善について考えていく必要がある。第5学年, 6学年において「読むことが好き」「書くことが好き」と回答した児童は, 「聞くことが好き」「話すことが好き」と回答した児童に比べて少ない。高学年の「読むこと」「書くこと」については新たな取組であるので, 児童の実態を把握しながら興味関心, 意欲が持てる授業を展開していく。

**中学校****1年目(平成26年度)**

- 1 課題認識の的確性(英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り)
- 2 計画や手順の妥当性(教員への聞きとり・アンケート 11月)
  - ・生徒の実態や学校, 地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
  - ・生徒の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。
- 3 研究のねらいの達成度
  - ・主に第1学年において, 小学校との継続性のある指導方法, 指導内容, カリキュラムとなっているか。(カリキュラムの妥当性の検証, 中学1年生へアンケートの実施)
  - ・中学校において「表現の能力」「理解の能力」が向上しているか。  
(パフォーマンステスト, 定期テスト) 第1学年 6月 11月  
(外部検定試験の結果分析) 第3学年 9月(12月)
  - ・教師の課題に対する認識や態度の変化  
(意識調査, 聞き取り) 英語科職員 1月

**2年目(平成27年度)**

- 1 課題認識の的確性(英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り)
- 2 計画や手順の妥当性(教員への聞きとり・アンケート 11月)

- ・生徒の実態や学校，地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
- ・生徒の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。

### 3 研究のねらいの達成度

- ・主に第1学年と第2学年において，小学校との継続性のある指導方法，指導内容，カリキュラムとなっているか。（カリキュラムの妥当性の検証，中学1年生へアンケートの実施）7月
- ・中学校において「表現の能力」「理解の能力」が向上しているか。  
（パフォーマンステスト，定期テスト）第1学年，第2学年 6月 11月  
（外部検定試験の結果分析）第3学年 9月（12月）
- ・教師の課題に対する認識や態度の変化  
（意識調査，聞き取り）英語科職員 1月

## 3年目（平成28年度）

### 1 課題認識の的確性（英語教育強化地域拠点校英語担当者会での聞き取り）

### 2 計画や手順の妥当性（教員への聞きとり・アンケート 11月）

- ・生徒の実態や学校，地域社会の現状を踏まえ無理のないものとなっているか。
- ・生徒の変容や保護者等の反応などが的確に把握されているか。

### 3 研究のねらいの達成度

- ・全学年において，小学校との継続性のある指導方法，指導内容，カリキュラムとなっているか。（カリキュラムの妥当性の検証，中学1年生へアンケートの実施 7月）
- ・中学校において「表現の能力」，「理解の能力」が向上しているか。  
（パフォーマンステスト，定期テスト）第1学年，第2学年 6月 11月  
（外部検定試験の結果分析）第3学年 9月（12月）
- ・教師の課題に対する認識や態度の変化  
（意識調査，聞き取り）英語科職員 1月

### 4 研究の結果得られた結論の実証度

（「児童生徒の実態把握→到達目標→手立て（実践）→評価」のサイクルに従い検証）

### 5 研究成果の一般性

- ・研究内容は，市内全中学校区で実施可能か。  
（市主催の研修会での報告）

## 4年目（平成29年度）

### 1 研究のねらいの達成度

- ・小学校英語科との継続性のある指導方法，指導内容により，小学校第3学年から中学校第3学年まで一貫性のあるカリキュラムとなっているか。（カリキュラムの妥当性の検証，中学1年生へアンケートの実施）7月
- ・中学校において「表現の能力」，「理解の能力」が一層向上しているか。  
（パフォーマンステスト，定期テスト）第1学年，第2学年 6月 11月  
（外部検定試験の結果分析）第3学年 9月（12月）
- ・教師の課題に対する認識や態度の変化

(意識調査, 聞き取り) 英語科職員 1月

- 2 研究の結果得られた結論の実証度  
(「児童生徒の実態把握→到達目標→手立て(実践)→評価」のサイクルに従い検証)
- 3 研究成果の一般性
  - ・研究内容は, 市内全中学校区で実施可能か。  
(市主催の研修会での報告)

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

定期テストの内容を見直し, 改善を行った。また, パフォーマンステストを実施し, 評価へとつなげた。中学校1年生の生徒への意識調査を11月に実施したが, 「英語が好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒は78%, 「英語の授業が好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒は85%だった。さらに「英語の授業の内容をどのくらい理解していますか」という質問に, 「理解している」「どちらかといえば理解している」と回答した生徒は59%だった。現中学校1年生は, 新たな英語教育を経験してきていない生徒なので, 今後学年が上がるにつれてどのように変容していくかを把握しながら, 研究を進めていく。平成27年2月には英検協会による「英語能力判定テスト」を実施する予定である。

## 高等学校

### 1年目(平成26年度)

- 1 定期考査(筆記テスト)をせず, パフォーマンスを評価する。
  - (1) 評価シートによるスピーチの絶対評価(ビデオ撮影による担当者全員による評価)
  - (2) スピーチにおける自己評価シートの利用
  - (3) インタビューテストによる評価
  - (4) ポイントカードを利用したコミュニケーションを図ろうとする態度の評価
- 2 到達目標に対する達成度を評価する。  
語彙サイズ・テスト(望月テスト)を行う。
- 3 外部評価テストを行う。
  - (1) 国際コミュニケーション科1年生全員が英語検定を受検し, データの分析を行う。
- 4 普通科・国際コミュニケーション科1年生全員に対し, 興味・関心・意欲を測定する意識調査を行う。

### 2年目(平成27年度)

- 1 定期考査(筆記テスト)をせず, パフォーマンスを評価する。
  - (1) パフォーマンス評価シートの利用
  - (2) 授業での観察評価
- 2 到達目標に対する達成度を評価する。
  - (1) インタビュー・テスト: 情報量とその内容の評価
  - (2) ライティング・テスト: 情報量とその内容の評価
  - (3) 語彙サイズ・テスト(望月テスト)を行う。



### 3 外部評価テストを行う。

- (1) 国際コミュニケーション科2年生全員が英語検定を受検し、データの分析を行う。
- 4 普通科・国際コミュニケーション科1年生全員に対し、興味・関心・意欲を測定する意識調査を行う。

### 3年目（平成28年度）

- 1 定期考査（筆記テスト）をせず、パフォーマンスを評価する。
  - (1) パフォーマンス自己評価シートの利用
  - (2) 授業での観察評価
- 2 到達目標に対する達成度を評価する。
  - (1) インタビュー・テスト：情報量，英語の質，論理的思考力及び批判的思考力の評価
  - (2) ライティング・テスト：情報量，英語の質，論理的思考力及び批判的思考力の評価
- 3 語彙サイズ・テスト（望月テスト）を行う。
- 4 外部評価テストを行う。
  - (1) 国際コミュニケーション科3年生全員が英語検定を受検し、データの分析を行う。
- 5 普通科・国際コミュニケーション科1年生全員に対し、興味・関心・意欲を測定する意識調査を行う。

### 4年目（平成29年度）

- 1 Can-do リストを利用した評価を行う。
  - (1) Can-do リストを利用し生徒の学習到達度を測定し、データの分析を行う。
  - (2) Can-do リスト及び4技能の測定方法が適切であるかを分析する。
- 2 パフォーマンスの評価を行う。
  - (1) 40人のクラスサイズでの授業において、「聞く」「話す」のパフォーマンスを測定し、評価を行う。
  - (2) 全体の評価の中でのパフォーマンス評価の割合を高める。
- 3 語彙サイズ・テスト（望月テスト）を行う。
- 4 外部評価テストとして国際コミュニケーション科1年生全員が英語検定を受検し、データの分析を行う。
- 5 普通科・国際コミュニケーション科1年生全員に対し、興味・関心・意欲を測定する意識調査を行う。

#### ○平成26年度の進捗状況・課題

授業と評価の一体化を目指し、ペーパーテストを行わず、100%パフォーマンス評価とした。パフォーマンス評価については、インタビュー・テスト25%、スピーチ25%、授業での観察評価（関心、意欲、態度、話す、聞く）25%、課題への取組（関心、意欲、態度、書く、読む）25%を基本としている。間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成するために、すべてに評価において文法的なミスを問わず、減点法ではなく、できたことに対する加点法で評価を行っている。インタビュー・テスト及びスピーチに関しては、科目ミーティングで共

通の評価表、評価基準を使用し、実施前に生徒にそれらを配布した。また、担当者による評価のばらつきを押さえるために、それらを録画し、5名程度を全員で一緒に評価し、評価基準の統一を図った。

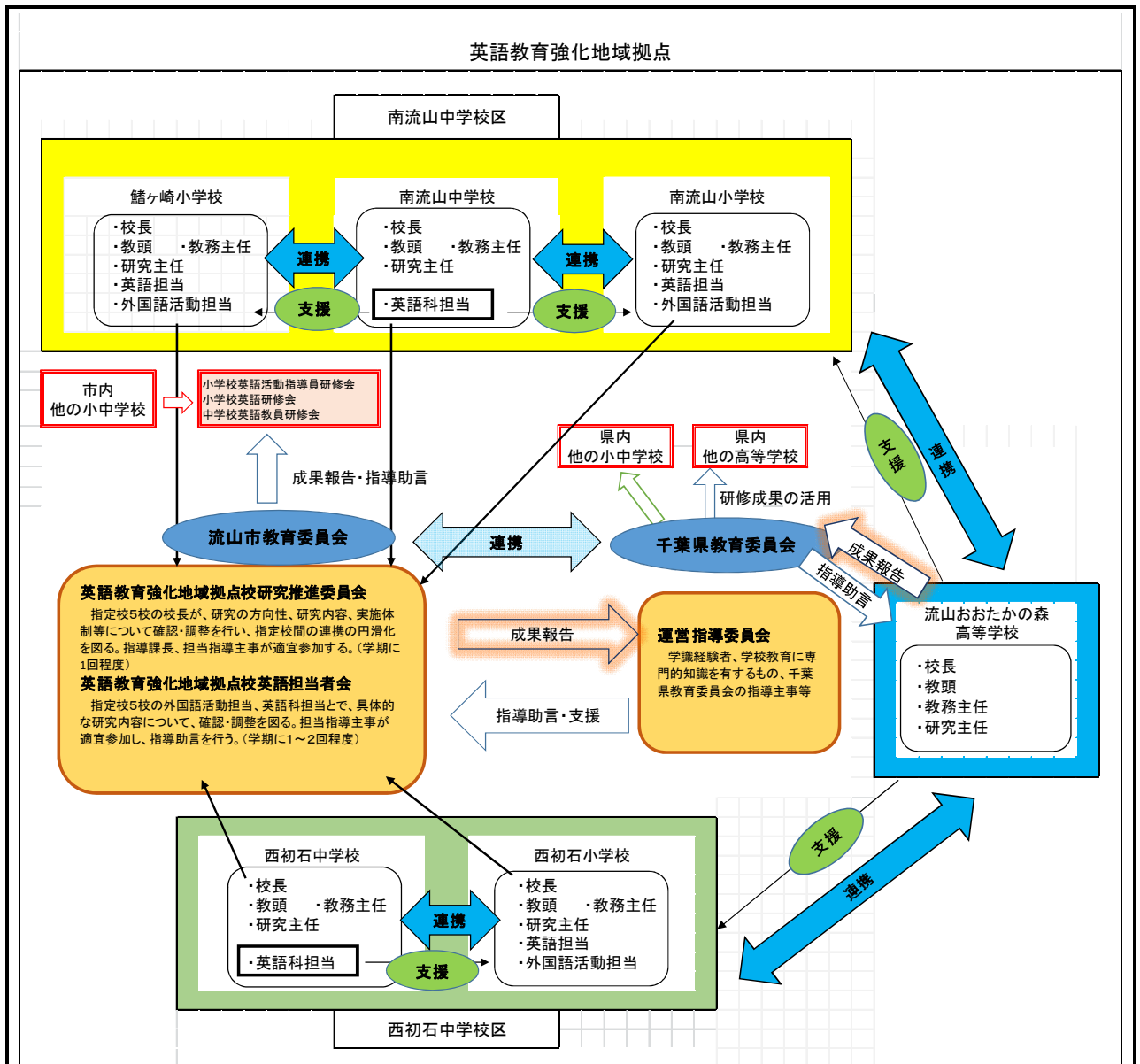
また、1学期は録画した自分のスピーチを、生徒自身がDVDを見ながら点数を付け、課題を見つける自己評価してきたが、本校生徒は自分に厳しく傾向があり、「～できない」という自己評価が多かった。そのため、自己評価を”For better speech”に変更し、「次はどのようなスピーチをしたいか」という前向きな思考で自分を振り返り、次の評価項目とそれに向けたトレーニングを考えさせた。これにより、授業と評価の一体化を生徒自身が実感できるようになった。

インタビュー・テストについては、授業で育成した関心、意欲、態度を適切に評価するため、たとえ文法的あるいは語法的なミスをしたとしても、新しい表現を積極的に使った場合は「テイク・リスク点」として加点した。その結果、多くの表現を使用し、自分の考えを伝えようとする生徒が増加した。

一方、授業内における観察評価については、クラスによって生徒の活動や進度にばらつきがあるため、教科担当の裁量によるところが大きい。科目ミーティングにおいて、今後検討が必要である。また、観点別評価においても大枠が決まっているものの、細部については現在のところ検討が行われておらず、改善を行う必要がある。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



「英語教育強化地域拠点校研究推進委員会」については、出張の日数を減らし、効率化を図るため、開催しないこととした。計画していた内容については「運営指導委員会」開催時に確認・調整を行い、運営指導委員より助言を頂くこととした。

## (2) 運営指導委員会

## 活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

流山市英語教育強化地域拠点校研究推進委員会及び指定校6校の外国語活動担当、英語科担当と連携を図りながら、研究のねらい、方向性、研究内容、方法、評価等について指導、助言、評価を行う。

## 第1回運営指導委員会（5月）

○研究のねらい、方向性、研究内容等についての確認・調整を図る。

- ・有識者による講義
- ・流山市英語教育強化地域拠点校研究推進委員会からの報告  
（研究のねらい、方向性、研究内容、方法、評価等）

## 第2回運営指導委員会（10月）

○研究過程の進捗状況について

- ・有識者による講義
- ・流山市英語教育強化地域拠点校研究推進委員会からの報告
- ・運営指導委員による指導・助言

## 第3回運営指導委員会（2月）

○研究成果のまとめ、次年度研究の方向性について

- ・流山市英語教育強化地域拠点校研究推進委員会からの報告
- ・運営指導委員による指導・助言

○平成26年度の進捗状況・課題

## 第1回運営指導委員会（5/26）

- ・県教育委員会より、国及び県の英語教育に係る施策や本事業の趣旨を説明した。
- ・流山市教育委員会より、研究のねらい、方向性等について確認し、協議した。

（主な協議内容）

- ・教育課程について（本年度の取組）
- ・目標及び学習内容について
- ・検証方法及び評価方法について等

## 第2回運営指導委員会（10/31）

これまでの研究の進捗状況及び国の実地調査の報告をし、今後の研究の方向性を確認した。

（主な協議内容）

- ・教育課程について（5カ年計画の見直し）
- ・学習内容（流山プログラム）について
- ・検証方法（意識調査及び外部試験団体の活用）について
- ・評価について（CAN-DO リスト含む）

○運営指導委員会及び英語担当者会議であげられた課題

- ・小中高の一貫した学習到達目標を設定し、研究に取り組んでいるが、具体的な学習内容や継続性の

ある指導法について理解を深め、より実践的な研修が必要である。

- ・年間指導計画と「CAN-DO リスト」の整合性について学校種を超えて検討し、共通理解を図る必要がある。
- ・各校種間であげられた「本年度の課題」を共有し、共通理解の中でその解決策を図る必要がある。
- ・本年度は、児童生徒の実態に応じ、各学校により指導していた部分を、より具体的な共通理解のもと進めていく必要がある。(小学校活動型における文字の扱い、中学校での教師の英語使用状況等)
- ・ICT活用に向けた環境整備が必要である。(予算的措置、研修の充実等)
- ・小中高一貫した学習到達目標、カリキュラムのもと、継続した指導が行われ、信頼性のある評価となるために、研究校英語担当者会議及び研究校内研修の充実を図る必要がある。  
(高等学校で蓄積されたパフォーマンステストの在り方を小・中で共有、中学校での観点別評価を小・高等学校で共有等)
- ・「CAN-DO リスト」を活用した指導と評価の改善に係る研修を充実させる必要がある。
- ・「CAN-DO リスト」形式の学習到達度目標を効果的に生徒と共有し、活用するための研究を進めるとともに、学習到達目標を地域(保護者等)へ公開する必要がある。
- ・研究校英語担当者会議及び校内研修の時間を確保するため、校長会等と計画的に調整を図る必要がある。(時間の確保が難しい)
- ・研究校校長の強いリーダーシップのもと、全校体制で研究を進めているが、校内分掌など、校内研究体制の推進についても共通理解のもと、調整を図る必要がある。
- ・小学校における指導者の研修の充実が必要である。(年度ごとに外国語担当者が変わる)
- ・流山市の取組及び研究成果等を効果的に県内に普及させる手立てが必要である。
- ・流山市(各研究校)が取り組みやすいように、国、県の柔軟な対応が求められる。  
(予算執行制限等)

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	小学校英語活動指導員研修会(4/4) 中学校ALT, 小学校スーパーバイザー研修会(4/15) 保護者会等での保護者への周知	
5月		第1回運営指導委員会 (5/26)
6月	英語教育強化地域拠点校英語担当者会(6/27)	
7月	おおたかの森高校出前授業(7/11) 英語教育強化地域拠点校英語担当者会(7/16)	
8月	中学校英語教員研修会(おおたかの森高校協力)(8/5) 小学校英語活動指導員研修会(8/25・26) ブロック別小学校英語研修会(中学校教員参加) (8/25・26)	

9月	文部科学省実地調査（9／16）	
10月		第2回運営指導委員会 （10／31）
11月	おおたかの森高校出前授業（11／13） 意識調査 英語教育強化地域拠点校英語担当者会（11／18）	
12月	おおたかの森高校出前授業2校（12／12・17） 英語教育強化地域拠点校英語担当者会（12／19）	
1月	おおたかの森高校出前授業（1／15）	
2月	授業参観等での授業公開（2／9・27） 英語教育強化地域拠点校英語担当者会	第3回運営指導委員会 （2／13）
3月		
<p>【その他の取組】</p> <p>中学校区ごとに、学校開放日等の相互授業参観を行ったり、適宜日程を調整して打合せ等を行ったりする。</p>		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	千葉県教育庁教育振興部指導課教育課程室 担当（吉村 政和）
連絡先（電話番号）	代表：043-223-2110（内線）4059 直通：043-223-4059
（電子メール）	E-mail： <a href="mailto:m.yshmr11@pref.chiba.lg.jp">m.yshmr11@pref.chiba.lg.jp</a> 仔仔 エルジャー